

編集後記

第1論文の授業者である宇治田さおりは、私(鹿内)の講演やワークショップに、これまで何度も参加してくれています。宇治田らは、十分な準備をして看図アプローチの授業をつくってくれました。それだけに「この授業はうまくいった」と言える指標をたくさん取り出すことができました。宇治田らが提出しているデータを見てみると、この看図アプローチ授業は実際にうまくいったように思えます。宇治田らが素晴らしいのは、一見うまくいったように思える実践の中に、重大な問題点を見つけ出していることです。さらに宇治田らは「その問題点を改善し、次にもっと良い看図アプローチ授業をしよう」ということを、論文の中でコミットメントしています。宇治田ら自身が「探求型」の実践に取り組み始めました。このことがよく伝わってくる論文です。実践の今後の展開が楽しみです。

第2論文の著者は田中岬です。田中は、今、最もアクティブに看図アプローチ実践を行っている実践家のひとりです。看図アプローチは、ビジュアルテキストを読み解き、読み解いた内容を発信していくプロセスを重視した授業づくりの方法です。田中論文はこの定義を体現した授業実践の記録です。また、田中論文からは「きゅうちゃん」と「ともだち」になることによって子どもたちが成長していく様子が伝わってきます。今回も読む人の心に届く好論文になっています。

「看図アプローチ」は「看図作文」の実践と研究が発展して生まれてきました。第3論文の鈴木有香子は、看図作文の実践と研究の発展に多大な貢献をしてくれた実践家です。現在は定年退職となり、再任用教員として中学校教育に携わっています。そのような立場で行った貴重な実践例を提供してくれました。看図作文は看図アプローチのルーツです。しかし、看図作文もまだまだ発展させる余地が残っています。私(鹿内)自身も、看図作文をより洗練された作文授業法にしていきたいと思っています。そのために、さらに多くの看図作文授業実践例の蓄積が必要になります。鈴木有香子他論文を読まれた先生方も、ぜひ看図作文授業に取り組んでいただきたいと思います。看図作文授業を行えば、教室中が「大盛り上がり」になります。その様子などを論文にまとめ、本研究誌に投稿していただきますようお願いいたします。

なお、本研究会では論文を書きなれていない先生方の論文執筆をサポートする制度も整えています。授業をどのように組み立て、どんなデータを揃えたらいいのか、等についての相談も受け付けています。この制度を遠慮なく活用ください。

文責 鹿内信善

—— 全国看図アプローチ研究会研究誌 19 号 ——

発行年月日 2023 年 11 月 15 日

編 集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員

石田 ゆき

伊藤 公紀

織田 千賀子

鹿内 信善 *

山下 雅佳実

渡辺 聡

(* 印は編集代表)

発 行 全国看図アプローチ研究会



kanzu-approach.com

事務局長・編集長・DTP 石田ゆき